故事成語 —— 五十歩百歩

梁の恵王が、「私は民のために心を尽くして政治を行っているのに、さほど政治に気を遣っていない隣国の人口が減らず、私の国の人口が増えないのはなぜか。」と孟子に尋ねた。

孟子対へて曰はく、
「王戦ひを好む。請ふ戦ひを以て喩へん。
塡然として之を鼓し、兵刃既に接す。
甲を棄て兵を曳きて走る。
或いは百歩にして後に止まり、
或いは五十歩にして後に止まる。
五十歩を以て百歩を笑はば、則ち何如。」と。
曰はく、「不可なり。直だ百歩ならざるのみ。
是も亦走るなり。」と。

〈『孟子』より〉

孟子は、「この道理がおわかりなら、自国の民が隣国より多くなることを望んではいけません。」と言った。

孟子は恵王にお答えして言った。
「王様は戦争がお好きです。戦争にたとえて答えさせてください。
ドンドンと進軍の太鼓を打ち、槍や刀で切り合いが始まりました。
すると鎧を脱ぎ捨て武器を引きずって逃げた者がいます。
ある者は百歩逃げたあとにとどまり、
ある者は五十歩逃げたあとにとどまりました。
五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑ったとしたら、いかがでしょうか。」と。
王は言った。「それはよくない。ただ百歩までは逃げなかっただけだ。
その者も同じように逃げたのだ。」と。